

令和7年5月月例・6月定例記者会見

【説明】

〔01 6月議会案件〕

市長 6月定例会の提出案件については、議案の数は16件、内訳は資料に記載のとおりです。内容については補正予算といくつかの条例の改正等です。条例については少し補足しますと、4番の生涯学習施設条例の一部改正では、生駒市コミュニティセンターの運営を市直営から指定管理者制度を導入すること、5番の生駒市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正では、消防団員の処遇改善のため出動報酬額を引き上げます。人事案件では、公平委員に新たに林功さんを選任します。

【質疑応答】

なし。

〔02 市役所の開庁時間を短縮〕

市長 市役所の開庁時間を短縮します。職員の働き方改革という要素もありますが、デジタルを活用し利便性を高める取組を併せて実施するという内容です。

具体的には、現在、「8時30分から17時15分」までの開庁時間を、9月1日から「9時から16時30分」とし、朝30分、夕方45分それぞれ短縮します。対象施設は資料に記載のとおりです。

例えば17時15分近くに来られた方の対応に1、2時間要することもあり、このような状況を改善し働き方改革を進めていきたいと考えています。

このような対応を決めた背景として、生駒市は全国的にも先駆けてコンビニでの証明書の交付を実施し、コンビニ交付率やマイナンバーカードの保有率もかなり高いということがあります。もう一つは、調査によると約9割の方が9時から16時半という時間帯に来庁されているということです。残りの10%の方には、ご負担、ご迷惑をおかけしますが、一方でデジタル化も組み合わせることで「開庁時間は短くなったけれども結構便利になった」と市民の皆様にもご理解をいただきたいと考えています。

デジタル化の取組については、「行政手続きのオンライン化」により市役所に来なくても家において手続きが完結するのが究極の効率化だと思っています。法令等の関係もあり全ては難しいですが、コンビニ交付サービスで取得できない証明書等をオンラインでやり取りし、クレジットカードやPayPayで決済後に証明書等を郵送するという市役所に来なくても手続きを完了するしくみで、7月から市民課・課税課において、マイナンバーカードを利用したオンライン申請を始めます。

また、さらに利便性の向上に繋げるため「オンラインによる来庁予約」を拡充します。市役所の場合は、証明書の交付などの手続きが多く予約して来庁することは基本的にありませんが、都市計画関係や住宅関係など、実際に来庁して担当者としつくりやり取りする部署などを中心に進めます。オンライン来庁予約により、事前にある程度こんな案件で行くということがわかれば、必要な資料を予約時にお知らせできるなどスムーズな対応ができ、双方にとってメリットがあると考えています。

既に実施しているお悔やみサービスは「窓口が一つになった」という点がご評価いただくことも大きいですが、実は来庁予約をすることで、必要な資料や手続きについて、事前にお知らせできる場所も

大きいと思います。証明書の交付程度で来庁予約が必要ということではなく、予約無しでも市役所対応はきちんといたしますが、「オンライン予約してから来庁されるとメリットがありますよ」ということを打ち出すことで、開庁時間が少し短くなっても効率が上がりますし、来庁目的が達成できて帰っていただけるような市役所になっていくのではないかと考えています。既にオンライン予約受付している課(市民課・健康課)もありますが、秋頃から、皆様のご理解をいただき、より良いサービスを実施していきたいと考えています。

最後に働き方改革との兼ね合いはありますが、どうしても土日とか夜でないと市役所には行けないという方もいらっしゃるので、今までと同様に市民課窓口の休日開庁はしばらく継続していきたいと考えております。

【 質疑応答 】

記者 確認ですが、窓口が開いている時間の変更で職員の就業時間の変更ではないのですか。

市長 職員の就業時間は現行 8 時 30 分から 17 時 15 分で、変わりません。

記者 9 月から 16 時半以降の電話対応は、留守番電話等、現行の 17 時 15 分以降の対応になるのですか。

担当課 はい、そうです。

記者 閉庁時刻の 16 時半は、県下 12 市の中で一番早いのですか。

市長 そうです。現在、奈良県では開庁時間が 8 時半から 17 時 15 分でない市は、奈良市さんだけです。奈良市は 9 時から 17 時で、生駒市は、開庁時刻は奈良市と同じですが、少し早く閉庁することになります。ただ全国的には、様々な自治体があり、開庁時刻、閉庁時刻ともに早いところもあれば遅いところもあります。また、16 時で閉める自治体も東海地方でありますし、全国的に見ると 16 時半閉庁は結構あり、早過ぎないと思っています。

記者 これを実施することにより一番期待する点は。

市長 職員の働き方改革を進めるというのはもちろんありますが、それに加えて、新しい企画などにも時間をかけて取組んでもらうことなども期待しています。「今まで以上に市民サービスを高める」というモチベーションは職員も持っていますので、デジタルを生かした利便性の高い窓口にしていく新しい取組を実現し、市民にご理解をいただきたいと思っています。

記者 職員の労働時間が短縮されるというような試算は。

市長 実際これをやってみて、特に今回対象となるような部署の勤務時間がどのように変わったかという数字はどこかで整理してお出しできると思います。しかし、実際、窓口の時間は短縮されますが、その分、別の仕事をすると単純に勤務時間が減るということではないかもしれません。新しい企画に取組むなど議論する時間が増えたというような視点を含めて整理できればいいのかなというふうに思います。

〔03 生駒市立病院開院10周年記念式典を開催〕

市長 生駒市立病院は、この 6 月に開院 10 周年を迎えます。私が市長に就任したのが平成 27 年の 4 月で、すぐに開院になっておりますのでちょうど 10 年ということです。この間いろんな課題もありましたし、生駒地区・生駒市医師会に入会するという大きな話もありました。また、第三者評価である「病院機能評価」をいただいたり、小児・周産期分の 20 床が増えるなど、いろんな動きがありましたが、課題を抱えながら大きな実績も上げることができたと思っています。

開院まで大変多くの市民のお力をいただいて出来た病院ですので、これまでの10年間、その前も含めて振り返りながら、メインは次の10年、生駒市立病院がどういう病院であるのか、指定管理期間後半10年ということでもありますし市立病院も含めて生駒市の医療のまちづくりをどのように進めていくのかを、私と遠藤院長から簡単にビジョンを申し上げ、それに基づきまして、パネラーの皆さんとディスカッションする時間にしたいと思っております。

具体的には、6月15日の9時半からスタートします。場所は、たけまるホールです。桜ヶ丘小学校ハーモニックバンドクラブの演奏に始まり、第2部の式典は9時50分からです。式典では、これまでいろいろお世話になった方々に感謝状の贈呈を行います。

第3部では、去年から今年にかけて行った市立病院のワークショップの概要を参加者から報告のあと、私と遠藤院長からの発表、その内容も踏まえてパネルディスカッションを行います。パネラーとして、病院の設立にご尽力をいただきました前市長の山下真知事にもご登壇いただけることになり、医療法人徳洲会の理事長、生駒市の病院事業推進委員会の委員長として長年ご尽力いただきました関本先生、そして院長先生と私が登壇して、本市の田中特命監がファシリテーターを務めるという形で行いたいと思っています。午後の第4部は生駒中学校吹奏楽部の演奏に始まり、第5部で「未来の病院」をテーマに子どもたちの絵画作品の表彰式を行います。第6部は奈良県立医大の赤井先生による講演を最後として当日は終わります。

また、付随する事業として、たけまるホールの1階やベルステージで、パネル展示や物販もありますので、この式典を中心にいろんな方が来ていただくような日にしたいと思っています。

10年の主な成果としては、分娩の受け入れ数が非常に多いということ、また、救急の受入件数が3000件を超えまた応需率も90%を超える高さであること、第三者評価であります病院機能評価の認定をいただいたこと、生駒地区また生駒市の医師会に入会したこと、そして経営の黒字化を達成できたということがあるかと思えます。次の課題や今後どうしていくのかという話は、当日ご説明をさせていただきたいと思えます。

【 質疑応答 】

なし

〔04_「いこみなチャレンジ」生駒駅南口エリア事業伴走プログラム 始動〕

市長 生駒駅南口周辺のまちづくりについては、継続して数年取組んでいるところです。今年度は、交通量の調査などの基礎調査もしますが、空き店舗を活用して賑わいを取り戻していくような取り組みを公民連携して実施しようと思っています。門前町として栄えた生駒駅の南口は、小さな商店街の割には、いろんな取組をして活気づいていましたが、コロナ禍や後継者不足で閉店となり、空き家・空き店舗が増加している状況です。閉店しても次の動きが出てこないところが課題でしたが、最近は少しずつそういう物件を使ってほしいというような動きも出ているところです。その中で、所有者さんが大切にされてきた物件を、新たにお店を開きたいとか活動したいとか何かをしたいというチャレンジ的なお店として、活用させていただくようなことも含めて、専門家の方がサポートをして、空き家・空き店舗でのチャレンジを成功に導くような、そして街の賑わいに繋げていくような取組をしていきたいと思っています。

このような取組を「(一財)地域総合整備財団(通称:ふるさと財団)」の「まちなか再生事業」とし

て、高評価で採択をされ、令和7年度は全国で4市だけの貴重な採択です。単に財政的な支援だけでなく、外部の専門家がこちらに入ってお力をいただけるところも非常に大きな意味があると思っています。

このプログラムの特長については、生駒駅の南口は大正時代から市場があり昭和レトロな味のある候補物件があって、使いたい人と貸してもいいよという人を約5件からマッチングしていくということが一つ目です。関西圏を中心に活躍する建築・デザインの専門家などのご支援をいただきながら進めていくというところが、二つ目の特長です。三つ目は、将来的にお店を本格的にやっていきたいというときの資金調達の仕組みを構築しようということでございます。また、商工観光課の取組ともいい形で融合していけばいいと思っています。プログラムについては、オンラインや現地での説明会をしながら、何かやりたいという人を繋いでいきたいと思っています。

資料の裏面にメンターとして参加をしていただく方を書いています。2人目は、建築家の方で、面白い建築設計をされたり、ご自身でもコーヒーが飲める観葉植物店をされたり、最近話題のお店だと思えます。3人目は、去年のチャレンジショップに参加され、生駒駅南口のさくら通りのチャレンジショップで物販をしていただいた方です。元々オンラインで絶大な人気を誇る子供服のブランドをお持ちの方で、「チャレンジショップをしていただいてありがとうございます」と言いたいぐらいの方です。今回は、メンターとしてお力をいただきます。飲食経営に関しましては、東生駒の「IKOMA GOURMET STAND」のオーナーの萩原さんにお力をいただきます。

結構、面白い皆さんがメンターになっていただくことで、いわゆるチェーン店でなく個性的な店舗を駅の南口で展開をしていくための大変頼もしい専門家のご支援がいただけるのではないかというふうに思っています。

【 質疑応答 】

なし

(その他の質問)

なし

(了)